

学校の部活

村上市立山北中学校一年 加藤 夏葵

「バドミントン部できなかつたねー。」

「来年はできるかなあ。」

「できるといいね。」

私とスポ少の菅原先生はバドミントンのスポ少が終わってから、こんな話をしていた。

私は小二からバドミントンをやっている。しかし、中学校の部活にはバドミントン部はない。だからいつも心の中で、「バドミントン部があれば……。」と、思っている。

去年まではバドミントン部ができないことが確実だったので、バドミントン部に入部することをあきらめていた。しかし、今年、以前バドミントンをやっていた方が校長先生になったり、スポ少の菅原先生が転勤して来たりする偶然が重なった。バドミントン部ができそうな条件はそろったと思われたが、結局バドミントン部はできなかつた。

それでも来年はできるかもしれない、という希望は残っている。

四月、どの部活に入ろうか迷っていた。そんな時に剣道部の顧問の先生が、「剣道部のマネージャーとして入部してもいいよ。」と、言ってくれた。

とてもうれしかった。迷わず、剣道部に入部することを決めた。しかし、やはりバドミントン部がないのは悲しかった。

以前の私は、ただ練習をして試合に勝てればいいと思っていた。その気持ちは、周りの人が応援してくれるにつれて変わっていった。

「夏葵、バドミントンがんばれよ。」

そう言ってくれる友達がいてうれしかったし、もっとがんばろうと思った。

私の学校には、郡市大会の前に激励会がある。郡市大会に参加する全ての部活動を全校生徒で応援するというものだ。バドミントン部はもともと存在しない部活であり、部員が私一人なのにもかかわらず、

「が一んばれ、が一んばれ、バド部。」

と、全校生徒が応援してくれた。

これから今よりがんばって、大会で良い成績を残すことでバドミントン部が設立されるかもしれない。だから、剣道もがんばり、バドミントンもがんばろうと思った。バドミントンの練習は、学校では、昼休みに菅原先生と体育館でやっている。ネットとネットをはるためのポールもあり、ラケットとシャトルもあるので、用具の心配はない。校長先生や教頭先生もたまに来て一緒にバドミントンをやっている。

郡市大会も近づいて少し緊張してきた。みんなが応援してくれるからがんばろう。それにこたえようと思うようになったし、そのために練習も一生懸命にやるようになった。そして、勝ちたいと思う気持ちがますます強くなった。

いよいよ郡市大会の日になり、緊張とともにワクワクする気持ちもあった。私はシードだった。シードだと気持ちが重くなるかと思ったが心配はなかつた。むしろ自分では、試合を楽しんでいたと思う。一回戦、二回戦は、順調に勝ち進んだ。準決勝、決勝も良い試

合内容で、相手の弱点を見つけ攻めることができた。全ての試合で2 - 0でストレート勝ちをすることができた。また、良いことだけでなく、自分の直すところも見つけることができたのでよかった。

下越大会は、県大会出場を目標にしてがんばったので、なんとか、ベスト8に入って県大会に出場することになった。自分のペースにできなくて、負けてしまったので次からは自分のペースにできるようにしたい。

これからも、私はバドミントン部が設立されるように、バドミントンをがんばり、それだけでなく、他のこともがんばっていきたい。できることがあれば、積極的に取り組んでいきたい。「努力は必ず報われる」この言葉を信じて、努力していきたいと思う。そして、これからいろいろな大会で良い成績を残していきたい。